

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

こどものときから、忘れてはいけない、忘れてはいけない、と教えられ、忘れたと言つては叱られてきた。そのせいもあつて、忘れることに恐怖心をいだき続けている。① 悪いときめてしまう。

学校が忘れるな、よく覚えろ、と命じるのは、② それなりの理由がある。教室は知識を与える。知識をふやすのを目標にする。せつかく与えたものを片端から、捨ててしまつては困る。よく覚えておけ。覚えていかどうか、ときどき試験をしてみる。覚えていなければ減点して警告する。点はいい方がいいにきまつているから、みんな知らず知らずのうちに、忘れるのをこわがるようになる。

教育程度が高くなればなるほど、そして、頭がいいと言われれば、言われるほど、知識をたくさんもっている。A、忘れないでいるものが多い。頭の優秀さは、記憶力の優秀さとしばしば同じ意味をもっている。それで、生き字引というような人間ができる。

ここで、われわれの頭を、どう考えるかが、問題である。これまでの教育では、人間の頭脳を、倉庫のようなものだと見てきた。知識をどんどん蓄積する。倉庫は大きければ大きいほどよろしい。中にたくさんのもが詰つていなければならないほど結構だとなる。

せつかく蓄積しようとしている一方から、どんどんものがなくなつて行つたりしてはことだから、忘れるな、が合言葉になる。③ ときどき在庫検査をして、なくなつていないかどうかをチェックする。それがテストである。

倉庫としての頭にとつては、忘却は敵である。博識は学問のある証拠であつた。B、こういう人間頭脳にとつておそる

べき敵があらわれた。コンピューターである。これが④ 倉庫としてはずばらしい機能をもっている。いったん入れたものは決して失わない。必要なときには、さつと、引き出すことができる。整理も完全である。

コンピューターの出現、普及にともなつて、人間の頭を倉庫として使うことに、疑問がわいてきた。コンピューター人間をこしらえていたのでは、本もののコンピューターにかなうわけがない。

そこでようやく創造的人間ということが問題になつてきた。⑤ コンピューターのできないことをしなくては、というのである。

人間の頭はこれからも、一部は倉庫の役をはたし続けなくてはならないだろうが、それだけではいけない。新しいことを考え出す工場でなくてはならない。倉庫なら、入れたものを紛失しないようにしておけばいいが、ものを作り出すには、そういう保存保管の能力だけではしかたがない。

だいいち、工場にやたらなものが入つていては作業能率が悪い。よけいなものは処分して広々としたスペースをとる必要がある。それかと言つて、すべてのものをすてしまつては仕事にならない。整理が大事になる。

倉庫にだつて整理は欠かせないが、それはあるものを順序よく並べる整理である。それに対して、工場内の整理は、作業のじゃまになるものをとり除く整理である。

この工場の整理に当ることをするのが、忘却である。人間の頭を倉庫として見れば、危険視される忘却だが、工場として能率をよくしようと思えば、⑥ どんどん忘れてやらなくてはいいけない。

そのことが、いまの人間にはよくわかつていない。それで工場の中を倉庫のようにして⑦ 喜んでいる人があらわれる。工場

としても、倉庫としてもうまく機能しない頭を育ててしまいかねない。コンピュータには、こういう忘却ができないのである。コンピュータには倉庫に専念させ、人間の頭は、知的工場に重点をおくようにするのが、これからの方向でなくてはならない。

それには、忘れることに対する偏見を改めなくてはならない。

C、そのつもりになってみると、忘れるのは案外、難しい。

D、何か突発の事件が起ったとする。その渦中の人は、あまりのことに、あれもこれもいろいろ入ることが一時に殺到する。頭の中へどんどんいろいろなことが入ってきて、混乱状態におちいる。※茫然自失、どうしていいかわからなくなる。これが「忙しい」のである。「忙」の字は、心（りっしんべん）を亡くしていると書く。忙しいと頭が働かなくなってしまう。頭を忙しくしてはいけない。がらくたのいっぱいの倉庫は困る。平常の生活で、頭が忙しくてはいけない。人間は、自然に、頭の中を整理して、忙しくならないようになっていく。

睡眠である。睡眠からしばらくすると、※レム（REM）睡眠というものが始まる。マブタがピクピクする。このレムの間に、頭はその日のうちにあったことを整理している。記憶しておくべきこと、すなわち、倉庫に入れるべきものと、処分してしまつてよいものの、忘れるものとの区分けが行われる。自然忘却である。朝目をさまして、気分爽快であるのは、夜の間に、頭の中がきれいに整理されて、広々としているからである。何かの事情で、それが妨げられると、寝ざめが悪く、頭が重い。

朝の時間が、思考にとって黄金の時間であるのも、頭の工場の中がよく整頓されて、動きやすくなっているからにほかならない。

昔の人は、自然に従った生活をしていたから、神の与え給う

た忘却作用である睡眠だけで、充分、頭の掃除ができた。ところが、いまの人間は、情報過多といわれる社会に生きている。どうしても必要なものが、頭にたまりやすい。夜のレム睡眠くらいでは、処理できないものが残る。これをそのままにしておけば、だんだん頭の中が混乱し、常時、「忙しい」状態になる。※ノイローゼなども、そういう原因から起る。

⑧ かつては、忘れてはいけない、忘れてはいけない、と言つていられた。倉庫として頭を使った。中が広々していたからである。このごろは入れるものが多くなったのに、スペースには限りがある。その上、倉庫だけではなく工場としてもものを創り出さなくてははいけない。場ふさがりごろしているのは不都合である。

忘れる努力が求められるようになる。

これまで、多くの人はこんなことは考えたこともないから、さあ、忘れてみよ、と言われても、さっと忘れられるわけがない。しかし、入るものがあれば、出るものがなくてはならない。入れるだけで、出さなくては、爆発してしまう。

食べものを食べる。消化して吸収すべきものを吸収したら、そののこりは体外へ排泄する。食べるだけで、排泄しなければ、糞つまりである。これまでの、倉庫式教育は、うっかりしていると、この糞つまりをつくりかねなかった。どんどん摂取したら、どんどん排泄しないとけない。忘却はこの不可欠な排泄に当る。⑨ 目のかたきにするのは大きな誤りである。

勉強し、知識を習得する一方で、不要になつたものを、処分し、整理する必要がある。何が大切で、何がそうでないか。これがわからないと、古新聞一枚だって、整理できないが、いちいちそれを考えているひまはない。自然のうちに、直観的に、あとあと必要そうなものと、不要らしいものを区分けして、※新陳代謝をしている。

頭をよく働かせるには、この⑩「忘れる」ことが、きわめて大切である。頭を高能率の工場にするためにも、どうしてもたえず忘れて行く必要がある。

忘れるのは価値観にもとづいて忘れる。おもしろいと思っ
ていることは、些細なこともめったに忘れない。価値観がしっ
かりしていないと、大切なものを忘れ、つまらないものを覚え
ていることになる。これについては、さらに考えなくてはなら
ない。

(外山滋比古 『思考の整理学』)

※(文中のことばの意味)

茫然自失 : 気がぬけてぼんやりすること。

レム(REM)睡眠 : 睡眠中の状態の一つ。

ノイローゼ : 神経の不安定な状態。

新陳代謝 : 古いものが、新しいものにかわること。

問 1

しい組み合わせを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|------|---|------|
| ア | A | だから | B | しかし |
| | C | そのうえ | D | ところで |
| イ | A | 例えば | B | もちろん |
| | C | また | D | なぜなら |
| ウ | A | つまり | B | ところが |
| | C | そして | D | 例えば |
| エ | A | むしろ | B | だが |
| | C | ところで | D | なかでも |

問 2

線①「悪いときめてしまう」の主語として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア みんな
- イ 学校
- ウ 筆者
- エ 親

問 3

線②「それなりの理由」とは、どのような理由ですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 覚えているか調べるための試験でできるだけいい点を取らせてあげたいから。
- イ 覚えたことを忘れる恐怖心をいだかさないように教育する必要があるから。
- ウ 人間頭脳をきたえ記憶力を優秀にして頭の優秀さをみぎきたいから。
- エ 博識な子どもを育てるために知識をたくさん蓄積することを重視するから。

問 4

線③「ときどき在庫検査をして、なくなっていないかどうかチェックする」とありますが、どのようなものの在庫検査をするのですか。文中から一語でぬき出しなさい。

問5 ———線④「倉庫としてはすばらしい機能」とありますが、ここではどのようなところが「すばらしい機能」ですか。ふさわしいものを次の中から三つ選び、記号で答えなさい。

- ア 記憶したものを忘れないところ。
- イ 持ちはこびが簡単で便利なところ。
- ウ 寿命じゅみょうがなく永久的に使えるところ。
- エ ものごとを整理することができる場所。
- オ 必要なものをすばやく見つけられる場所。
- カ 一つ一つ指示しなくても自動で動く場所。
- キ 必要なものと不必要なものを判断できる場所。

問6 ———線⑤「コンピュータのできないこと」とはどのようなことですか。「くこと」につながるように文中から十字でぬき出しなさい。

問7 ———線⑥「どんどん忘れてやらなくてはいけない」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ものが多くありすぎると、じゃまになって作業能率が悪くなるから。
- イ ものがたくさんあると、それ以上にものを入れることができなくなるから。
- ウ ものを扱うことによって、そのものから新たなものがつくり出せるから。
- エ ものをなくすことによって、違ちがう種類のものを入れることができるから。

問8 ———線⑦「喜んでいる人」とはここではどのような人ですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア より多くの知識を得てそれを忘れないことが大切だと考える人。
- イ さまざまなより新しいものを作り上げることが大切だと考える人。
- ウ ものごとを整理して余計なものを忘れることが大切だと考える人。
- エ 作業効率のよい環境かんきょうで多くのものをつくり出すことが大切だと考える人。

問9

——線⑧「かつては、忘れてはいけない、忘れてはいけない、と言っただけ」とありますが、なぜですか。その理由として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 昔は、生活態度を厳しく指導され、忘れることがゆるさ
れなかったから。
- イ 昔は、コンピューターがなく、人が忘れずに覚えること
が大切だったから。
- ウ 昔は、何事も自分でおこない、多くのことを覚えなけれ
ばならなかったから。
- エ 昔は、睡眠をとるだけで頭の中を整理できるほど、入っ
てくる情報が少なかったから。

問10

——線⑨「目のかたきにする」とありますが、何をどう
うすることですか。最もふさわしいものを次の中から一つ
選び、記号で答えなさい。

- ア 記憶をくり返していくことを、避^さけること。
- イ 睡眠によって頭を整理することを、禁^きじること。
- ウ 一度覚えたものを忘れることを、否定すること。
- エ 何かあたらしいものを創^つり出すことを、おそれること。

問11

——線⑩「忘れる」ことが、きわめて大切である」と
ありますが、筆者は、どのように「忘れる」ことが「大
切」だと考えていますか。最もふさわしいものを次の中か
ら一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の考え方をしっかりと持ち、それにしたがって忘れ
てもいいものを忘れることが大切である。
- イ 一度得た知識はのびがささないように記憶し、できるだけ忘
れることを少なくすることが大切である。
- ウ 過去に記憶した知識を全て整理し、必要なものと必要で
ないものを分けてから覚えなおすことが大切である。
- エ 自らの生き方に照らし合わせて、必要となる知識だけを
選んでいったん忘れて再び記憶することが大切である。

問12

本文の内容にあうものを次の中から二つ選び、それぞれ
記号で答えなさい。

- ア 新しいことを考え出すには、記憶している中で必要でな
いものを、忘れていくことが必要となる。
- イ 多くのことを忘れずに記憶するには、常に頭の中を整理
し、より多くの新しいものを創^つり出していく必要がある。
- ウ 教育程度が高くなればなるほど、多くの知識を記憶して
いなければならず、そのためには頭の優秀さが求められる。
- エ コンピューターができたから、多くを覚えることはコン
ピューターにまかせて、人は新しいものを創^つり出すべきだ。
オ より多くのものを記憶することにより、その知識を生か
しながら、より多くの新しいものを創^つり出すことができる。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

※ ファストフードのハンバーガーショップで定番のセットメニューを注文した。

周囲は青海学院の新生ばかりだ。親と一緒にのヤツなんてほとんどいない。芸術の選択科目を何にしたかという会話が聞こえてきて、僕も同様のことを宮本に訊ねた。

とはいえ、クラスも違うし、同じ科目を選んでいても、一緒だね、と喜ぶ気持ちは湧かない。互いに、へえ、と興味なさそうに返すだけだ。

友だちらしい会話といえ、宮本から「くんを付けなくてもいいよ」と言われ、「僕もいいよ」と返し、互いにぎこちなく呼び捨てし合うようになったことくらいか。

時折、僕が話している途中で、宮本が目を閉じるのが気になった。きつと、退屈なのだろう。食べ終わったら速攻で解散だな、などと思いつながら、フライドポテトをまとめて数本口に運んだ。

「ところで、町田は部活、もう決めた？」
耳を疑った。正面からミサイルが飛んできたような衝撃だった。

母さんも良太も入るのをためらっている領域に、宮本はポテトを片手に、呑気な口調で踏み込んできた。ポテトをほおぼっていたおかげで、すぐに答えずにすんでいるけれど、自分は今どんな表情になっているのか、見当もつかない。

「中学のときは、何部だった？」

宮本が呑気さに① 輪をかけて訊いてくる。

しかし、ふと、② 肩からボトリと何か重たい塊が落ちたような気分になった。

宮本は僕が陸上部だったことを知らない。僕も宮本が何部だ

ったかを知らない。

互いに、青海学院を受験した理由も知らない。

スポーツ推薦ではないのだから、青海学院に入学した理由を、一流大学への進学が目的だと思われる方が自然だ。

宮本から、同情されることはない。

「陸上部、だったけど」

「そうなんだ……。あつ！」

宮本はハツとしたように、フライドポテトの油で指先がテラテラと光る片手で口を押さえた。

あのことは知っているのだろう。

「ゴメン。失礼なこと訊いたかも」

「何で？」

とぼけた調子で訊き返した。

「町田つて、卒業式、松葉杖で来てたよな。確か、交通事故に遭ったつて」

「そうだけど」

合格発表の帰り道、自転車で青信号の交差点を直進していると、ものすごい勢いで自動車から右折してきて、僕の意識はぶつとんだ。

意識が戻った僕の目に、最初に飛び込んできたのは、ギプスで固められた足だった。

「杖なしで歩いているから忘れてたけど、もう大丈夫なの？」

「まあ、ぼちぼちな」

「そっか。もし、陸上とか、何かスポーツしたかったのに、ケガのせいで、なんてことになってたらと思つてさ……」

本当に③ 勘のいいヤツだ。僕の左足にはボルトが入っている。

「いや、いや、いや。事故とか関係なく、運動部なんて最初から考えてなかったから。スポーツ推薦で、どの種目も県内の精鋭が集まってきてるのに、そこに交ざっていける根性なんてない

よ」

入学前から、必死で自分自身に言い聞かせていたことを、他人の前で口にしてみると、事故に遭う前からそう思っていたような気分になれた。

同時に、自分がどうしようもなくつまらない生き物のようになんて思えてきて、魂が蒸発していくのをぼんやり眺めるように、ガラス越しの空を見上げた。

「根性ね……」

宮本は僕に同調するようにつぶやいた。コーラの入ったLサイズのカップを取り、ズズツと音を立てて飲み干す。

互いのトレイの上は紙くずだけになり、そろそろ解散の頃合いだ。

「でもさ！」

宮本がカップを置いた。⑥ 手際よく、自分のゴミと僕のゴミをひとまとめにすると、二枚のトレイを重ねて、脇へ寄せる。

「中学のときは、吹奏楽部以外、よほどの理由がない限り、運動部に入らなきゃいけないって空気が流れてたけど、高校って、そういうの感じないよな」

宮本は声を若干弾ませて言った。

「そうかな……」

僕だって、交通事故後、③ 高校生活を一度も前向きに考えなかったわけではない。

部活動は必須ではないけれど、スポーツ以外の何か新しいことを始めてみようと思ひ、青海学院の入学案内に記載されている、文化部をチェックした。

音楽が好きだから、軽音楽部はどうだろうと考えてみたものの、歌う自分も、楽器を演奏する自分も想像できなかった。好きな歌と一緒に思い浮かぶのは、それを聞きながら走っている自分の姿だけだ。

「俺はさ、入りたい部活があるんだ。そのために、青海、受けたいようなものだし」

宮本のまっすぐな物言いに、ピキン、と音が聞こえたような気がした。テーブルを挟んだ二人の間にヒビが入り、④ 溝が生じた音が。

希望を持たずに入学した僕と、希望を抱いて入学した宮本。選択科目のことを話しているときは、目の輝きがまったく違う。

「宮本って、中学、何部だった？」

「卓球だけど、それはもういいんだ」

宮本は新品のブレザーの袖口でテーブルを拭いた。たいして汚れていなかったけど、母さんが見たら卒倒しそうだ。

よほど大切なものを置くのかと思いきや、ブレザーのポケットから、折りたたんだザラ紙を取り出して広げた。僕が読みやすい向きで、テーブルの真ん中に置く。

部活勧誘のチラシだ。

「放送部？」

確認するように宮本に訊ねた。もったいぶりながら出したけど、間違えたんじゃないのか、と。

「そう、放送部」

宮本は大きく頷いた。

(中 略)

「俺さ、ラジオが好きなんだ。だから、こうやって生の声を聞いているときも、マイクを通したらこんな声だろうなって、想像しちゃうんだよね」

だから、時々、目を閉じていたのか。とはいえ、洋服が透けて見えちゃうんだよね、と同じニュアンスに思えて、気持ち悪

い。

「そうなんだ……」

⑤ 愛想笑いを浮かべながら、椅子から少し腰を浮かせる。ガタンと鳴った。

「ああ、待って。本題はこれからだから」

本題？ 理解できないまま座り直す。

「今まで、町田とあまりしゃべったことなかったから自信なかったけど、今日、話しているうちに、やっぱり、俺の目利き、いや、耳利きは間違いなかったって、確信したよ」

宮本は ⑥ 胸を反らせて、まっすぐ僕を見た。つられて、こちらも姿勢を正してしまふ。愛の告白らしきことなら、直ちに逃げよう。

たとえ、走れない僕に、宮本がすぐ追いついてくるとしても。

「町田の声は、俺の理想の声なんだ！」

ガヤガヤと賑わっている店内に、宮本の声が響き渡った。

周囲の視線を感じ、僕は身を縮めて俯いた。恥ずかしくて、顔を上げることができない。ましてや、声を出すことなんて。

今、この状況で、僕の声に興味を持った人は少なからずいるはずだ。そして、僕が少しでも声を発したとたん、たいしたことないじゃん、とがっかりされる。

「ゴメン、なんか熱くなってる」

宮本は声のトーンを少し落とした。

「俺は、脚本家を目指しているんだ」

顔を上げると、⑥ 宮本の表情はこれまでになく真剣なものになつていった。

脚本家。ドラマや映画の脚本を書く人だというくらいに認識はある。

母さんは時々、テレビを見ながら「やっぱり、この人の話はおもしろいわね」などと言っているけれど、僕にはそれが、脚

本家のことなのか、原作の小説家のことなのかすらわからない。

「だから、放送部に入る」

宮本の熱意は感じるけれど、どうにもピンとこない。

「文芸部じゃなくて？」

確か、文化部一覧に載っていた。本を書くのならこちらではないか。

「いや、放送部なんだ」

宮本は譲らない。もう一度、放送部のチラシを見たものの、どこが脚本家に通じるところなのかわからない。

「これ」

宮本が指をさした。「作品制作」の項目だ。

「この、作品というのは、ドラマのことなんだ。ラジオやテレビの」

「なるほど」

ようやく、脚本家と放送部が繋がった。放送部とはそんなことをするのか、とも。

チラシにひと書いておけばいいのに、と思ったものの、それが載っていたとしても、僕のような初めから興味のないヤツは、読みもしないのだから、効果は同じなのだろう。

「俺はラジオドラマを作りたい、だから」

宮本は再び僕をまっすぐ見つめた。

「町田、⑦ 一緒に放送部に入ろう！」

(湊かなえ 『ブロードキャスト』)

※(文中のことばの意味)

ファストフード …… 短時間で調理、提供できる食べ物。

問1

~~~~~線①②のことはについて、文中における意味として最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 輪をかけて

- ア 少しふくみを持たせて
- イ さらに強みを持たせて
- ウ かなり興奮して
- エ まったく疑わなくて

② 手際よく

- ア 時間をかけずに
- イ 手間取って
- ウ 手をよく見て
- エ 注意せずに

③ 胸を反らせて

- ア えらそうにして
- イ いばり散らして
- ウ 見下して
- エ 自信をもって

問2

——線①「肩からボトリと何か重たい塊が落ちたよ  
うな気分になった」とありますが、どういうことですか。  
最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えな  
さい。

- ア 学校から帰ってきた重たい荷物について問われ、  
ようやく下ろすことができているということ。
- イ まわりの人たちが気を使って口にできなかった部活に  
関することを言われ、かえって気持ちが悪くなったということ。
- ウ 選択科目の話は息がつかまるほど面白くなく、部活の話に  
なったとたんに会話がはずんでうれしくなったということ。
- エ 仲良くなるきっかけを探していたところ、部活に関する  
話題になったことで今後の展開に期待しているということ。

問3

——線②「勘のいいヤツ」とありますが、「僕」は「宮  
本」のことをどのように見ていますか。最もふさわしいも  
のを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人の思いに寄りそうことができるやさしい人物。
- イ 人の心配事に気づくことができる読みの鋭い人物。
- ウ 人が気にしていることを平気で口にする無神経な人物。
- エ 人の話を最後まで聞かずに自分の話をする失礼な人物。

問4 ———線③「高校生活を一度も前向きに考えなかったわけではない」とありますが、どのような考えがありますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア これまで経験のない部活に取り組んでみようという考え。
- イ 新しくできた友だちと部活を作ってみようという考え。
- ウ 一度断念した陸上を再び始めてみようという考え。
- エ スポーツ推薦で入部した仲間と競い合おうという考え。

問5 ———線④「溝が生じた」とありますが、なぜですか。その理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「僕」は入学することだけが目標だったので、入学後を語る「宮本」のことは、受け入れられなかったから。
- イ 「僕」は部活への勧誘を断っていたのに、「宮本」がしつこく食い下がるので、気分が悪くなったから。
- ウ 「僕」は希望する部活への入部をあきらめたのに、部活への思いを語る「宮本」のことが、うらやましかったから。
- エ 「僕」は希望する部活に入りたかったのに、「宮本」がその思いを理解してくれず、むなしくなったから。

問6 ———線⑤「愛想笑いを浮かべ」とありますが、どのような様子をあらわしているか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「宮本」と同じ気持ちになれないが、相手の気分を悪くしないように合わせておこうという様子。
- イ 「宮本」が自分にはない感性を持ち、堂々としていることを心から尊敬する様子。
- ウ 「宮本」の自信に満ちた様子が気に食わず、話を聞くことさえ我慢ならない様子。
- エ 「宮本」の意味不明な考えが理解できず、笑いをこらえている様子。

問7 ———線⑥「宮本の表情はこれまでになく真剣なものになっていった」とありますが、「宮本」の気持ちとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ひとりで放送部に入るのは勇気がいることなので、「僕」と仲良くなつて一緒に入部するため必死になっている。
- イ 本気で脚本家を目指すなら周りの視線や関心を引くのが第一だと考え、大声を出せるほど強気になっている。
- ウ 自分の思いをなかなか理解してもらえない事に腹を立て、「僕」が入部するまで話をやめないと意地を張っている。
- エ 放送部に入るのは将来つきたい職業のためで、単なる思いつきではないことを「僕」に伝えようと意気こんでいる。

問 8

——線⑦「一緒に放送部に入ろう」とありますが、「宮本」が「僕」をさそう理由として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 希望する部活もなくてふらふらしていた「僕」は、「宮本」にとつてさそいやすい存在だったから。

イ 「宮本」のイメージでしかなかった「僕」の声が、自分の思っていた通りのものだと思信できたから。

ウ 何事にも挑戦する気のなかった「僕」に、声の良さに気づかせることで前向きになってもらいたかったから。

エ 「僕」が脚本家を目指してくれたら競争相手になるので、「宮本」自身のレベルアップになるだろうと考えたから。

問 9

——線「宮本が目を閉じるのが気になった」とありますが、「目を閉じ」たのはなぜですか。その理由を文中のことばを使って二十五字以内で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問 10

この文章の表現について説明したものととして、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア (中略)の前では「僕」の視点で描かれているが、(中略)の後では「宮本」の視点で描くことで、部活への二人の思いが異なっていることを明らかにしている。

イ (中略)の前では比喩表現によって「僕」の心情を際立たせているが、(中略)の後では比喩を用いないことで、「宮本」の提案に乗り気でない「僕」の様子が示されている。

ウ 「僕」と「宮本」が会話する場面では、飲み物を音を立てて飲み干したり腰を浮かせたりする行為によって、会話の終了を望む「僕」の心情が暗示されている。

エ 「僕」と「宮本」が会話する場面では、擬人法や擬音語などを効果的に用いることで、二人の心情を対比的に表現している。

三

上の「ことわざ」と下の「意味」が同じになるように、  
（ ① ）（ 〃 ）（ ⑤ ）にあてはまるものとしてふさわしい  
ものをあとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

「ことわざ」

「意味」

・（ ① ） 馬の友

幼いころからの友人。

・（ ② ） の背くらべ

似たり寄ったりであること。

・ぬれ手で（ ③ ）

苦勞をせずに利益を得ること。

・（ ④ ） から駒こまが出る

思いがけないことが起こること。

・（ ⑤ ） の下のどじょう

何度も同じようにうまくいく  
ことはないということ。

ア 松

イ 竹

ウ 梅

エ 杉すぎ

オ 桜

カ 柳やなぎ

キ 栗あわ

ク どんぐり

ケ へちま

コ ひょうたん

四

次の——線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答え  
なさい。

① セントウで祖母の背中を流す。

② 役所のチヨウシヤを改築する。

③ 日本は国連にカメイしている。

④ フランスに住む旧友をタズねる。

⑤ 記録的なコウスイ量となる。

⑥ 石の上にコケが付着している。

⑦ 楽器を演奏するのは楽しい。

⑧ 安易な考えで行動してはいけない。

⑨ 磁石を使って実験をする。

⑩ 自分の欲求を満たす。

これで問題は終わりです。